

5. 学ぶ意欲・習慣

家庭での勉強

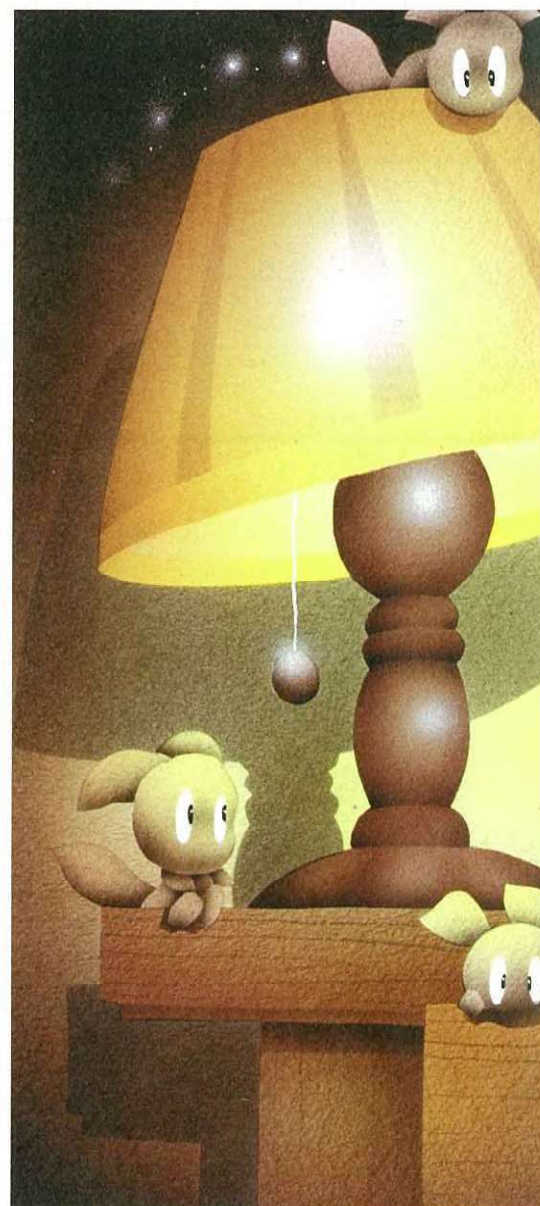
Question 一質問一

家ではほとんど勉強しません。せめて宿題くらいはしてほしいのですが、このままではとても心配です。

Answer 一答え一

「頑張れ」より「頑張ってるね」と励ましてあげましょう。子どもはいつも、親の期待に一生懸命こたえようとしているものです。子どもが勉強できるような環境をつくりましょう。

親が子どもに「こうあってほしい」と望むのは、愛しているからこそ願いです。しかし、親の願いが強すぎると、子どもには負担になります。勉強しないことだけを取りあげないようにしましょう。何かきっかけとなって子どもが勉強したいと思うことがあります。日頃から、勉強しやすい環境をつくっておきましょう。親はいつでもどんなときでも、子どもの応援団でいたいものです。



Column 一コラム一

しかること・ほめること

親はとにかく子どもの短所が目につく。説教は禁物です。子どもは反発嫌によって、しかったりしからなかったことは、できるかぎり少なくしないことに気づきます。やむを得ず、ほめてばかりでもいけません。子ど



き、ちょっとしたことでも、しつこくしかります。

するだけです。兄弟や友だちと比べてしかると、子どものプライドが傷つき、やる気を失います。親の機当たりすると、子どもは親に不信感を抱きます。子どもをしかると、お互いにいい気持ちがありません。しかし、少々のことは大目に見て、絶対にしからなくてはならないことだけをしっかりとしましょう。意外に少しかつた時はその後で、どうすべきかを必ず教えましょう。

もが本当に努力した時、頑張った時などに限定してほめましょう。安易な金品のほうびはやめましょう。

6. 進路選択

高校への進学

Question ー質問ー

子どもが中学生になり、**高校への進学が気になります**。どのようなアドバイスをしたらよいでしょう。

Answer ー答えー

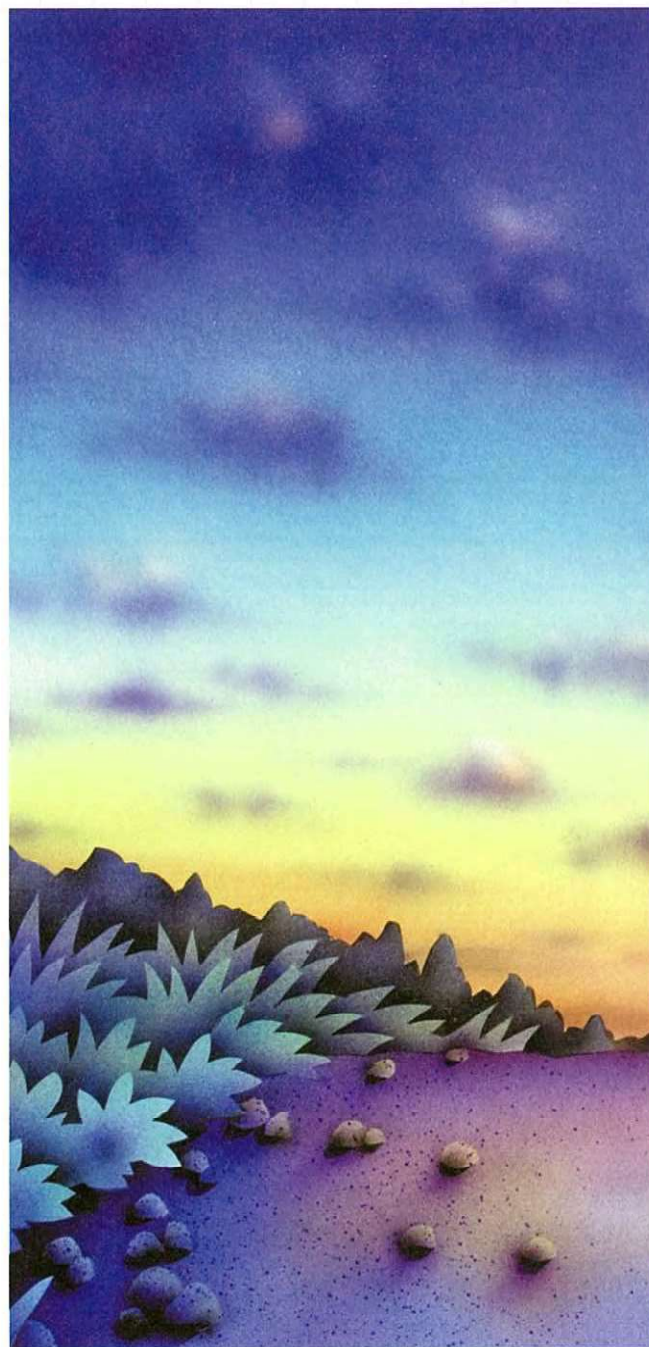
親のプライドより子どもの希望や適性などを大切に考えましょう。何のために高校へ進学するのかを親子でよく話し合い、子どもにあった学校を選びましょう。

子どもにあった、子ども自身を高めることができる「**学びたい学校**」を選ばせるようにしましょう。そのためには、各高校の特色などについてできるだけ多くの情報を手に入れ、子どもの適性と合わせて考えてみましょう。

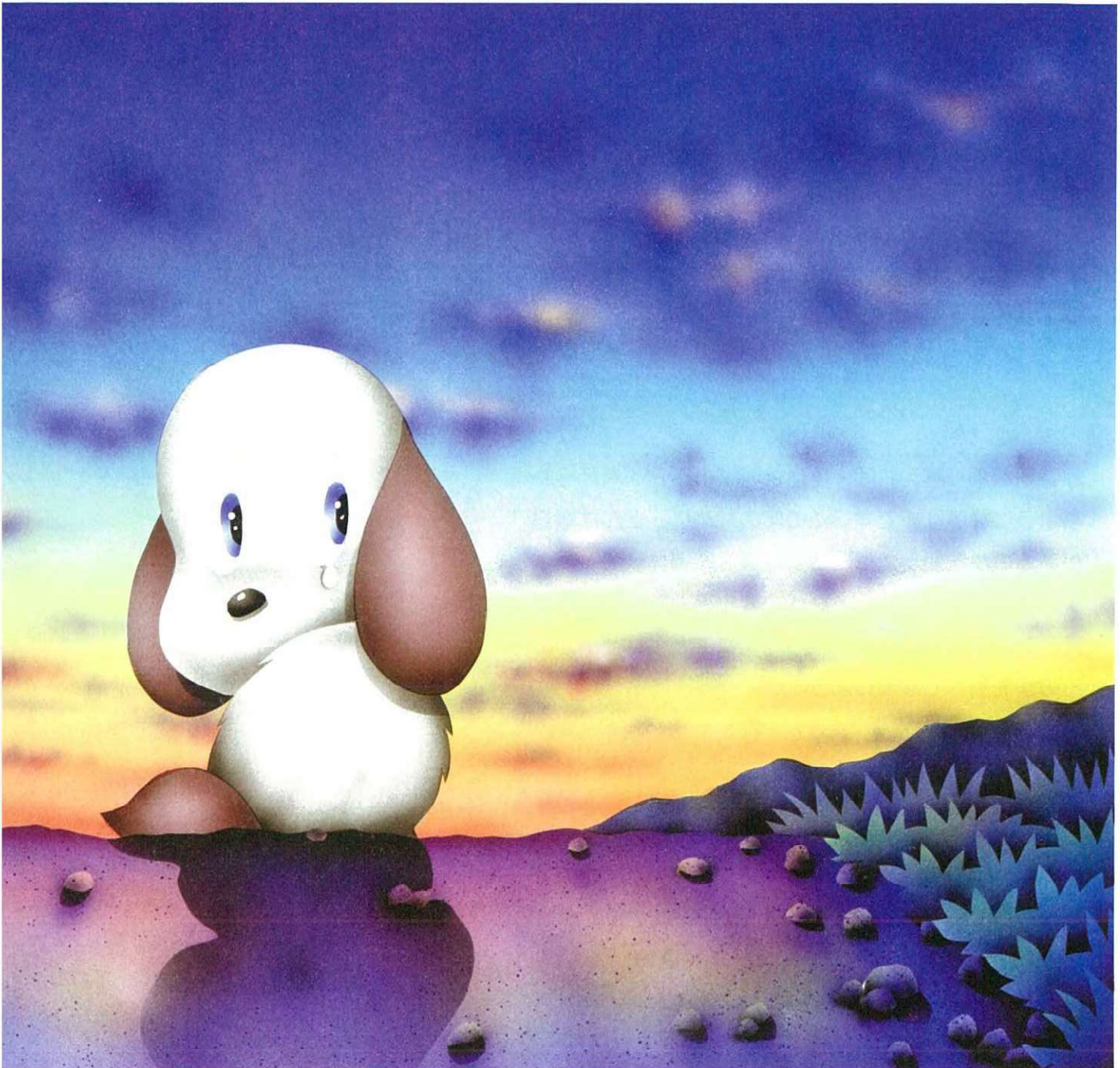
Column ーコラムー

中学校入学の意義

わが子が中学生になるということの意義の時期の子どもは、新しく始まる中と思っています。その意欲が持続できるよの話の聞いたり、親自身の中学時代の話をしていくものです。



義を考えてみましょう。中学校への入学は、子どもにとって人生の大切な節目にあたります。この学校生活に夢や期待をふくらませ、友だちをたくさんつくり、勉強や部活動を一生懸命頑張ろう、親は子どもをサポートしましょう。学校生活の中で楽しかったことや興味のもてたことなどしたりするのもよいでしょう。その中から、将来への夢や高校進学への具体的な希望が自然とわ



6. 進路選択

将来の職業選択

Question 一質問一

うちの子は、将来どんな職業に向いているか分かりません。得意な分野もありません。どうしたらよいでしょうか。

Answer 一答え一

気持ちはよくわかりますが、心配する必要はありません。思春期の子どもは「自分探し」をしている最中なのです。将来の自分の進む道に関心をもつようになる時期が必ずきます。その時に、親としてアドバイスしてあげましょう。

思春期を乗り越えれば、自然と将来のことを考えられるようになるはずです。その時のために、どんな職業があるのかを知ったり、さまざまな職場体験をしたりするのもよいでしょう。時代の変化とともに、仕事の種類も変わっています。親も一緒に、どんな仕事があるのかを調べてみましょう。

Information

私のしごと館：<http://www.shigotokan.ehdo.go.jp>

キッズニア東京：<http://www.kidzania.jp>

13歳のハローワーク：<http://www.13hw.com>

Column 一コラム一

働くことの意義

働くことによって、自分がした事を通して、自分のつくった生まれます。さらに、周囲の人から誇りをもって働いている姿を子ども





仕事が誰かの役に立った、人から喜ばれたという充実感や達成感を得ることができます。さまざまな仕物や提供するサービスが人のためになっていると確信できるようになれば、自分の仕事に対する誇りが必要とされるようになれば、「自分は世の中に役立っている」という実感をもつことができます。親自身が、に見せることが何よりも大切です。

7. 親子関係

子どもとの会話

Question 一質問一

子どもともっと親密なコミュニケーションをとりたいのですが、どうしたらよいでしょうか。



Answer 一答え一

むりやり子どもとコミュニケーションをとろうとしても、子どもは親を避けようとしてします。子どもをかまいたい気持ちは分かりますが、**そっとしておくのが一番です**。しかし、子どもの言動が気になったり、心配になったりするようなことがあれば、率直にその気持ちを伝えましょう。

父親によくありがちなことですが、テレビを見たりマンガを読んだりしている子どもに、一方的にちょっかいを出してしまうことがあります。邪魔された子どもは怒り、「きもい」「うざい」などの汚いことばを父親に返します。父親もつい「なんだ、その口のきき方は」などとどなってしまい、コミュニケーションどころか険悪な雰囲気になってしまいます。子どもとうまく会話をするためには、子どもの様子をよくみて、さりげなく、タイミングよく声をかけることが大切です。

Column -コラム-

母性・父性

子どもを育てていくうえで、母性と父性という機能はとても大切です。ありのままのその子を受け入れ、認め、そして絶対的なやすらぎを与えるのが母性です。これに対して、これはダメ、こうしなさいというルールやマナーを教えるのが父性です。母性は、何でも許してしまいますが、父性は許されないことを示し、制限します。

母性が強すぎると、甘えん坊で自立できない人間が育ち、父性が強すぎると、わがままで攻撃的な人間が育つと言われています。子どもが健全に育つためには、まず、母性的なものが家庭に必要です。母性的なものが十分に与えられてからでないと、子どもは父性的なものを受け入れることができません。



7. 親子関係

親に甘えすぎる子

Question —質問—

うちの子は親に甘えすぎるように思います。親離れさせるのにはどうしたらよいでしょうか。

Answer —答え—

無理に親離れさせなくてもかまいません。子どもが甘えてきたら、しっかりと甘えさせてあげましょう。親の愛情を十分感じ、心と体が充電できれば、自然と親離れしていきます。

幼児期に愛情が足りなかった子どもが、思春期になって親に甘え直すことがよくあります。大きな体をした子どもが親にべたべたと甘えてくると、「こんなに大きくなっているのだから、もっとしっかりしなさい」などと思いがちですが、そうではなく、やさしく抱きしめてください。親に受け入れてもらったという「安心感」をもたせることが大切です。



Column —コラム—

居場所

居場所を「自分の心のよりどころとなる人」と考えると、居場所があるかないかは、心の安定を確保してくれる人がいるかいないかということになります。

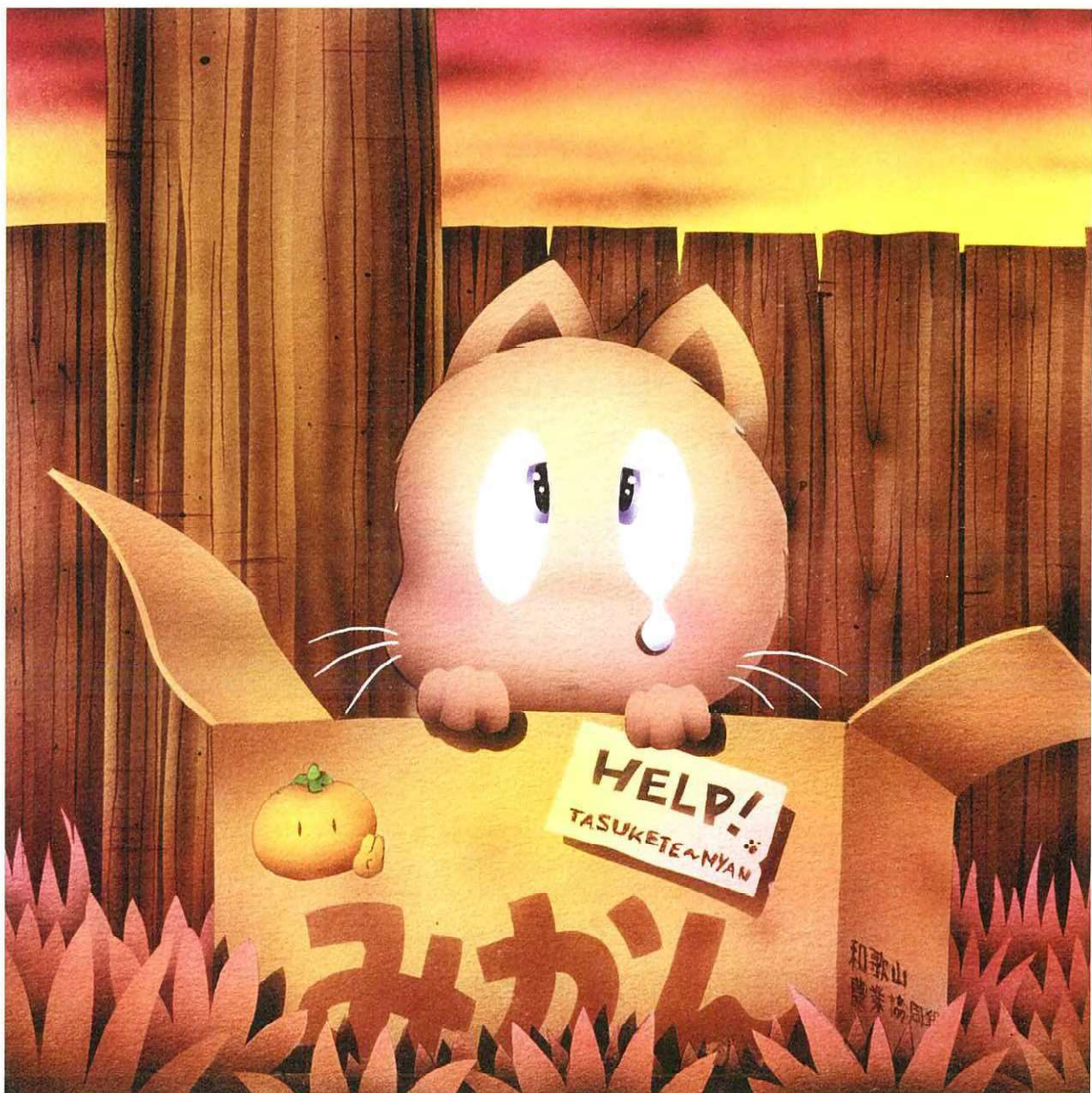
特に家庭においては、母親や父親が子どもの居場所となることが大切です。学校生活には、子どもにとってストレスのかかることが多くあります。学校で嫌なことがあっても、家で母親や父親に話を聞いてもらえれば、それですっきりするような関係が理想です。いわば、母親や父親が子どものカウンセラーとなるのです。親が子どもの「居場所」となるように努力しましょう。

Column -コラム-

「親らしく」とは

母 親だから「母親らしく」接し、父親だから「父親らしく」接しなければならないと思込んでいませんか。愛情をもって子どもを優しく見守り、時に厳しく接することは、父親にも母親にも必要なことです。子どもが、悩みを抱えて不安になっているときにはしっかりと支え、間違ったときには毅然としかることができる。そんな優しさと強さの両方が大切です。

でも、親だからといって最初からできるわけではありません。子どもと一緒に、悩みながら成長していけばよいのです。思春期の子どもにとって、一番身近な大人である母親や父親は、将来の自分の姿をイメージするためのモデルです。



7. 親子関係

もし非行をおかしたら

Question ー質問ー

もし、子どもが万引きなどの非行をおかしてしまったら、
どうしたらよいでしょうか。

Answer ー答えー

まず、子どもがしたことを親もしっかりと受けとめ、親も子どもと共に謝罪し、罪をつぐなわなくてはなりません。頭ごなしにしからずに、なぜそのような行為をしてしまったのかなど、子どもの気持ちを聞いてあげましょう。たとえ、軽い気持ちで、友だちに誘われて、おもしろ半分に行ったとしても、万引きは犯罪であることをしっかりと自覚させましょう。今後、絶対にしないように戒めなくてはなりません。

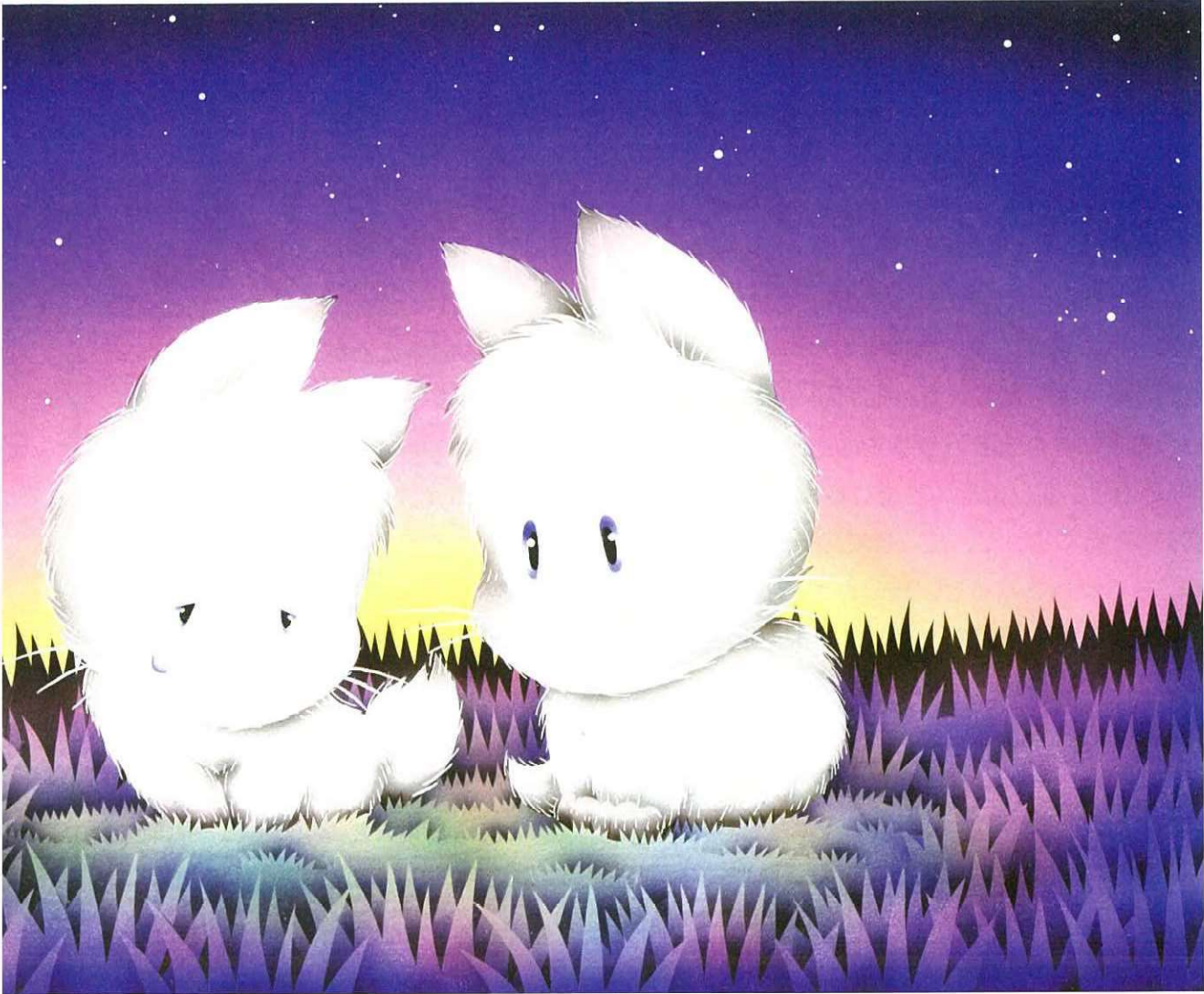
万引きを軽く考える傾向がありますが、これは犯罪であるということをはっきりとおさえておきましょう。「子どものことが分からない」と言う親がいますが、本当は子どもの気持ちを分かろうとしない場合が多いようです。日ごろから、子どもの言動に関心を持ち、子どもの変化に注意していきましょう。何か変化があった場合は、子どもと話し合うようにしましょう。



Column ーコラムー

再犯と親子の絆

人の少年が初めて
たりにして、「自
く立ち直っていきまし
非行を重ねていくよう
更生した少年の場合
れず、ついふらふらと
なもの、「親子の絆」が
が疎遠で、信頼と受容
いものとは映らず、非



と一緒に非行をおかした事例です。一人の少年は、自分が非行をおかしたことで親の苦しむ姿を目の当分の心臓がナイフで突き刺される思いがした」と話しました。ほどなくその少年は更生し、再非行もなした。もう一人の少年は、親の苦しむ姿を見て、「効き目があった。もっと苦しめ」という思いで、更にこなりました。

は、親子間で信頼と受容を中心とした心のパイプが太くつくられていました。友人からの誘いを断り切非行に及んだものの、すぐに目が覚めたように立ち直れました。その少年にとってかけがえのない大切傷つくことに耐えられなかったのでしょうか。再び非行の闇にのめり込んでいった少年の場合は、親子間を中心とした心のパイプがつくられていませんでした。その少年にとっては、親子の絆はかけがえのない仲間の方に家族にかわる居場所を求めていったのです。